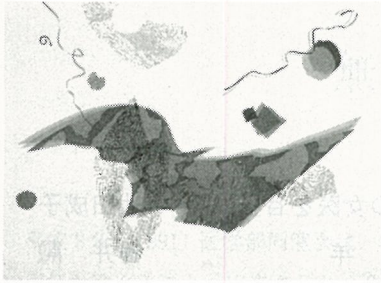


富山医科薬科大学

医学部同窓会報

1992. 創刊記念号



富山医科薬科大学

医学部同窓会報

1992・創刊記念号

創刊に寄す

- | | | |
|---|------------|------|
| 1 | 無名と有名 | 高田良久 |
| 2 | 挨拶 | 宮林千春 |
| 4 | 同窓会誌発刊に際して | 佐々木博 |
| 5 | 同窓会誌発刊を祝して | 高久 晃 |

報 告

- | | | |
|----|----------|--------------|
| 12 | 本学卒業生の動向 | 清水幸裕
窪田裕子 |
| 14 | 医学教育を考える | 高田良久 |
| 39 | 医学部同窓会 | 宮林千春 |

随 想

- | | | |
|----|----------------|------|
| 6 | 回想 -卒業式の日- | 塚本憲史 |
| 7 | 同窓会報に寄せて-身边雑記- | 松澤伸洋 |
| 8 | 脱線医師 | 佐々 学 |
| 10 | 富山を偲ぶ | 杉本恒明 |
| 18 | 医療雑感 | 鏡森定信 |
| 19 | 海外留学について一言 | 清水幸裕 |
| 21 | 音楽と伝統 | 佐々木博 |
| 23 | ポケットの穴-留学を終えて- | 藤村正樹 |

—表紙—

「翔」

木版型押し 91×62cm

作：金子千恵子

立軌会会員

日本版画協会会員

協力：大沢野クリニック

半田豊和（昭和57年卒業）

高野 隆（昭和58年卒業）

海外だより

- | | | |
|----|---------|------|
| 27 | ボストン便り | 神谷 哲 |
| 28 | ワシントン便り | 沢崎茂樹 |

医局だより

- 36 医の志『インドの女医を目指して』 池田成子
この1年 薄井 勲
最近思うこと 喜多敏明
この1年 中沢不二雄
努力 川口 誠
皮膚科での6年間 籠浦正順
2外とサンダル 長田拓也
- 40 People われら一期生

クラブだより

- 42 掛け替えのない季節 田沢賢一
44 文化部会・この1年 久永明人

46 人事消息

- 50 新任教授紹介

54 行事報告

- 55 第2回同窓会総会に出席して 井田一夫
健全なる同窓会の運営のために 高井里香

56 短 信

—第10回同窓会総会出欠連絡ハガキから—

60 会 告

- 11 開学十周年記念誌の御案内
25 平成4年度東京大学医科学研究所
熱帯病学基礎課程研修実施要項
26 富山医科薬科大学医学会入会のお勧め
59 文化部会機関誌「竹林に坐す」の御案内

で活躍されている方、また、保健行政に携わっている方など、多士済々です。今年からは特別会員として教授、助教授、講師を始め、他学から本学にこられた方々にも御入会いただき、さらに層の厚いものにいたしたいと思っております。それぞれの分野で一心にその力を傾けている人の後姿は、接する者が何かの感銘を与えずにはおかないと思います。縁あって本学に集まった方々のかけがえのない経験を、宝として耳を傾け、お互いの糧としあう内に誇りうる特色としての気風、気質が醸し出されてくるのではないのでしょうか。本会及び本会報が、芳馥たる気風を醸す、真摯なコミュニケーションの場として育っていくよう諸会員の皆様の絶大なる御協力を切

望するものであります。

江藤淳氏は、「我々には自分達の存在感や幸福感の源泉でもある、敢えて名前と呼んだり、言葉にしない世界『無名の世界』があって、漱石の名無しの猫はこの表れである」と述べられました。それならば母校や同窓会はその無名の世界の一隅を占める存在であると同時に名のある世界への玄関でもあるように思います。本会及び本学が、私たちの安心と安定の拠り所となり、同時に私たちの活動の軌跡が本学の特色として広く世界に発揮されんことを望んで励みたいと思います。

たかだ よしひさ 富山医科薬科大学 第1内科

挨 拶

理事長 宮 林 千 春 (昭和57年卒業)

富山医科薬科大学医学部同窓会誌発刊に際し、御尽力いただいた関係各位に感謝し、併せて、“同窓会誌の発刊、発刊”と叫びながらもはや十年を費やし、幾多の御迷惑をおかけした皆様にお詫び申し上げます。

創刊号発刊に至って、ようやく同窓会活動も準備期間から一步前進した感がいたします。

この場を借り、富山医科薬科大学医学部同窓会誕生の経緯、現在の活動の状況および問題点の幾つかを記し、同窓会の将来の第一歩の足跡としたいと思います。

遡れば一期生の入学した昭和51年春より同窓会発起人の先生方の御好意で、卒業後の同窓会活動を前提とした同窓会の仮運営がなされておりました。同時に我々学生の各種活動に援助、指導等をいただいていたましたが、卒業を半年後に控えた昭和56年7月

13日、一期生が発起人の先生を囲み同窓会発足に関する話し合いが行われました。席上、仮運営されていた同窓会を同窓生の手で運営していこうという意見のもと一期生はもちろん、二期、三期および四期生の諸君にも参加、協力してもらい、具体的な同窓会準備会の運営ならびに同窓会会則の原案を検討しました。

9月初旬から12月までの間、7回の検討会を重ね、業窓会をはじめとする各大学の同窓会の資料と比較検討し、修正訂正をくりかえし、運営方法と同窓会会則の原案を完成いたしました。

翌57年1月には会則原案を提出し、役員選出、仮承認を経て、3月20日の卒業式後、同窓会発足式を行い、正会員（一期生同窓会）による同窓会運営を始めました。現在、正副会長、理事長、理事、評議員には、同窓生から選出された正会員が着任し28条